厚生労働科学研究費補助金

研究課題名

課題番号(H27-健危--般-005)

エステティックの施術による身体への危害についての原因 究明及び衛生管理に関する研究

主任研究者:関東 裕美(公益財団法人日本エステティック研究財団理事長)

分担研究者: 鷲崎久美子(東邦大学医学部皮膚科学講座),

古川 福実・山本有紀(和歌山県立医科大学皮膚科学教室)

舘田 一博(東邦大学医学部微生物·感染症学講座)

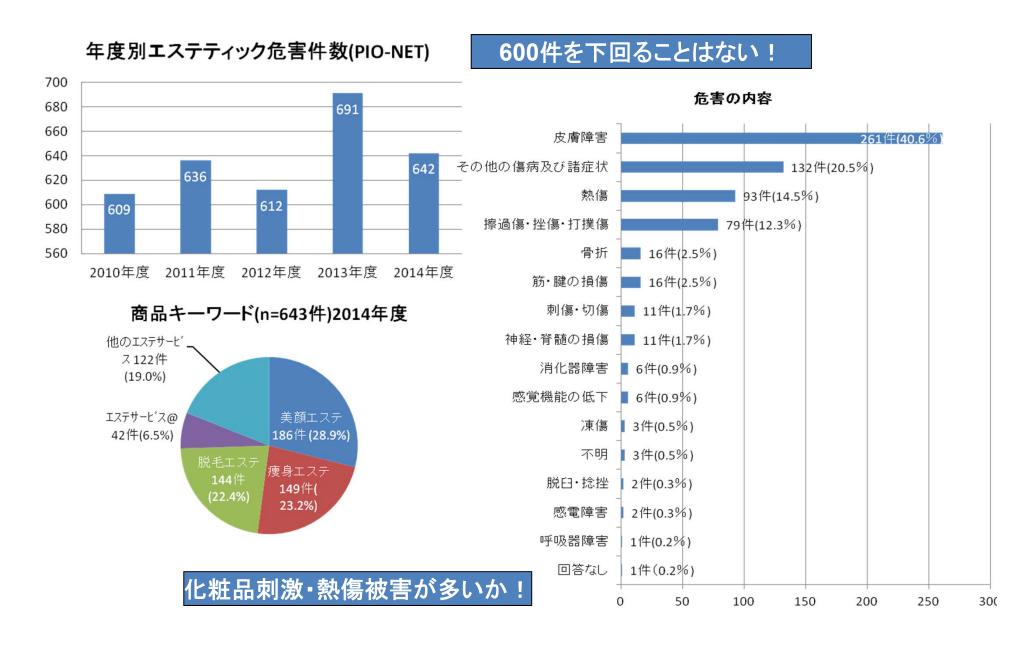
1. 研究の背景

個々の皮膚状況に応じた手技, 化粧品, 栄養補助食品および, 機器, 用具等を用いて, 心身の安らぎを目的に施術されるべきエステティック業であるが, 施設(エステティックサロン)や施術者(エステティシャン)に関する公的基準や法律上規制がないため衛生管理や施術に関係する健康被害が懸念される。

2. 研究の目的

国民生活センターには、毎年600件以上のエステティックの健康被害が報告されており、行政的にも看過できない状況にある。そこで本研究は、これらの健康被害防止と施設の衛生環境が向上することを目的として健康被害の原因究明への協力を医療機関へ要請し実態調査を続ける。被施術者に対する安全性確保の手段として利用者背景を探ること、施設や施術者の衛生環境調査を続け啓発教育を行う、衛生管理教育の実態調査をして意識改革を図ることなどを具体的目標に研究を進める。

エステティックによる消費者健康被害の実態



★国民生活情報センターの集計:皮膚炎発生頻度ワースト5
1位 化粧品 2位 健康食品 3位 美容 4位 医療機具 5位 下着
・・・⇒化粧品・エステティックを中心とした皮膚障害が最も多く10年以上も1位を占める!
平成14年度には皮膚障害の全事例2,139件のうち化粧品・エステティックによるものが1,018件(消費生活年報2003)。

★アトピー性皮膚炎に化粧品等で刺激を受けることやエステティックサロンなどで皮膚の 過剰手入れを行ったことによる刺激性接触皮膚炎、化粧品含有のプロポリスや植物成分 等で起こるアレルギー性接触皮膚炎などが報告(化粧品の安全性等に関する調査、生活 文化局平成11年)。 東京都健康安全研究センターHPより

《原因を把握しないと湿疹は難治化》

パッチテストで原因確認 アレルギー性化粧品皮膚炎



香料 アレルギー







46歳エステティシャン≪自身が施術者でありながら自分の

皮膚質の把握はできていなかった!≫

⇒色素沈着型接触皮膚炎



PT結果

17 Lla son



wrban advance complex
(細胞を活性化する複合成分)
シアパター(抵抗力を強化する)、
セイヨウハッカエキス(炎症を抑える)、
キシリトール&乳糖(酸化を防ぐ)
菩提樹フラワーウォーター
(保湿、血行促進、収斂効果)

ローズ(タンニンに富み、皮膚を滑らかでフレッ

シュな状態に)



エッセンシャルオイル:ラベンダー、セージ、タイム、 キダチハッカ、ゼラニウム アーバンアドバンス:シア脂、セイヨウハッカエキス、 キシリトール、乳糖

コーティング材料として家庭用品で使用・カシューナッツオイルと

交差感作

ウルシオール(++) 過酸化ベンゾイル(++)



ニキビ用海外化粧品には含有(+)

自然化粧品・植物油は必ずしも安全ではない

エステサロンで脱毛後 腋下多発性毛嚢炎



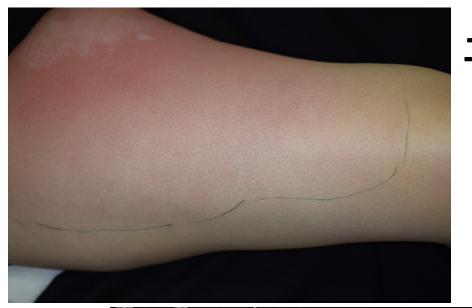




発熱と腋窩の痛みと腫れ 痛いニキビ様皮疹が躯幹にも散在 血液検査で炎症反応↑↑ 抗生物質の点滴治療



素因の事前把握は難しい



エステサロンでビキニライン 脱毛後に 発症した蜂窩織炎 •

制毛時に 局所感染?

抗生剤の点滴・切開排膿 2週間の入院加療



全てがエステティック施術のせいではないと思われるが・・
防ぐ方法はなかったのか

生理前後は低下」

個人の免疫能力・体質の把握 事前把握は難しいか・・



アトピー性皮膚炎患者対象 アンケート調査

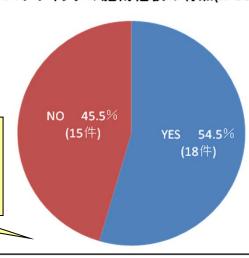
女性	27名
男性	6名
合計	33名

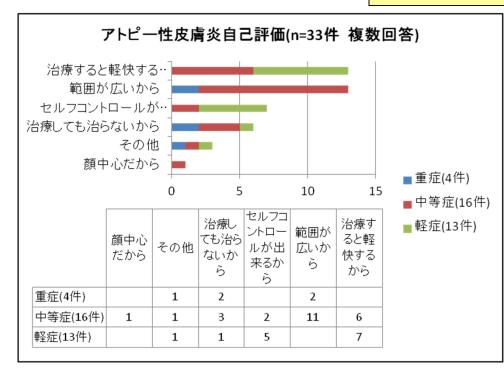
平均年齢 36.2歳

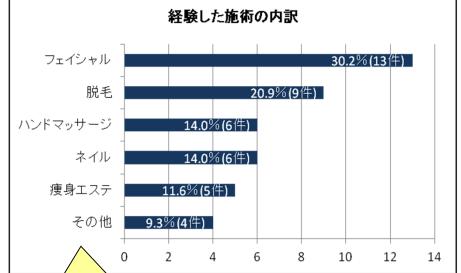
10歳代	1名
20歳代	4名
30歳代	20名
40歳代	6名
50歳代	2名

約半数が中等症と感じている患者群で半数以上はエステティック施術を経験

エステティックの施術経験の有無(n=33件)







脱毛は危険のイメージ? 顔面施術がトップ!

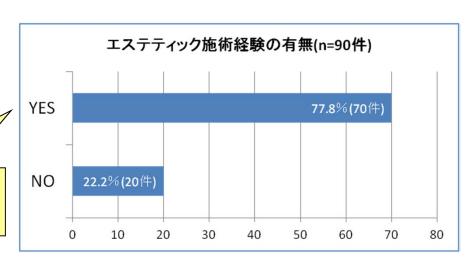
健常者対象 アンケート調査

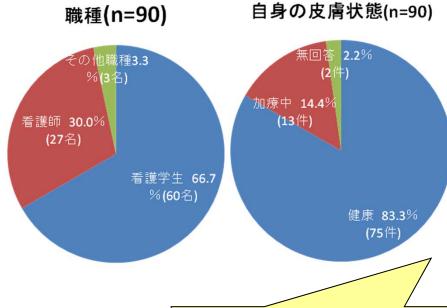
女性	90名
男性	0名
合計	90名

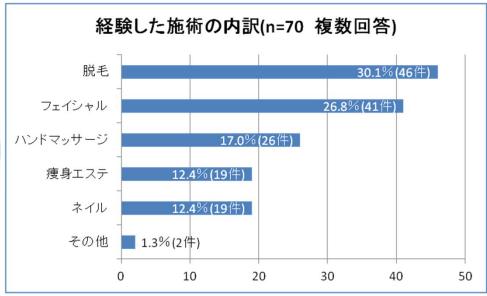
平均年齢 29.3歳



8割近くが エステティック施術を経験







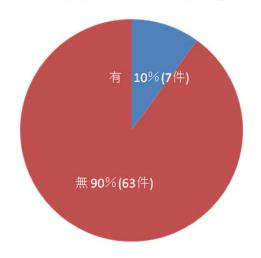
自身の皮膚は健康と8割が感じている健常者群では脱毛・顔面施術・・若年者ではコストの問題もある・・

健常者

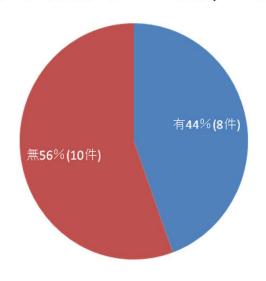
皮膚炎群は皮膚障害を感じやすい!

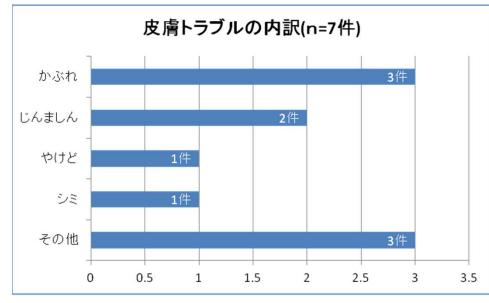
アトピー性皮膚炎

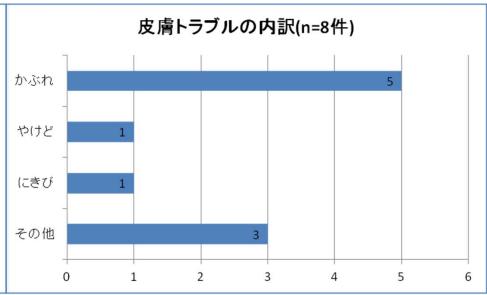
施術による皮膚トラブルの経験(n=70件)



施術による皮膚トラブルの経験(n=18件)







被施術者(利用者)の背景により施術を選ぶ 能力・見抜く能力を教育できるか・・

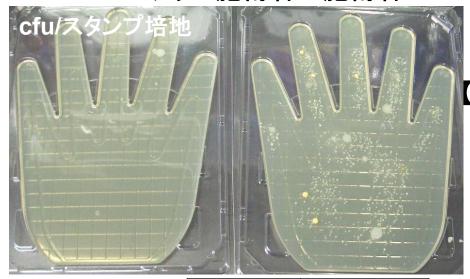
予想される状況を施術者に 教育・対応指導の必要性



エステテック皮膚障害防止カウンセリングシートの検討

事前聞き取り	対応策
アレルギー履歴	花粉症・喘息・皮膚炎・・・施術方法の変更を検討
エステテック履歴	かぶれ・・・施術方法の変更を検討
内科履歴	糖尿病・・・痩身治療希望時の温度設定
	高血圧・頭面施術時発赤の予想
	悪性腫瘍・・リンパ浮腫のチエック、緩和ケア
心因性反応	更年期・・発汗、発赤のケア
	精神疾患・・緊張弛緩の緩和

ベテラン施術者≪施術者1≫



施術前	施術後
18	420

【施術後】

【6回施術:平均16· → ⇒395】

★施術者1.2ともに施術前後で 菌数は2~10倍に増加

被施術者由来なので技能による差はなし

【被施術者顔面皮膚の細菌検査】

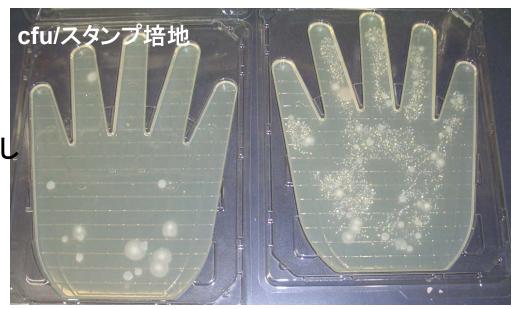
被施術者から検出された菌の多くは 病原性のないCNS 被施術者NO.5では施術後の鼻から MRSA(+)?鼻腔に存在しているもの が顔面皮膚に付着した可能性? 【施術者の手指細菌検査】施術直前と施術直後に施術者のハンドスタンプ⇒37°C 一昼夜培養後、生育した細菌数をチェックし、同定試験

【施術前】

★施術者1.2ともに培地上の菌数は少量



★ S.aureusと思われる菌が検出? 新卒施術者≪施術者2≫



手洗いは年齢差がなく実施できていたが、施術後菌数の差は被施術者 からの暴露量が多い=技術の違いで施術量・接触度の違いか・・

施術前	施術後
16	495

【4回施術:平均18· → ⇒232】

技術者養成施設における衛生管理教育の問題点

- ・施術中の感染機会についての理解が十分でなく衛生消毒が教えにくい。
- 学校での実習中には消毒薬や器材の不足により頻回消毒が実施されていない 状況がある。就業後サロンでの対応と違うことがあり混乱を招く。
- 生徒からの質問にうまく答えられない。
- ・テキストが難しすぎるうえに、講師陣の説明もうまくできておらず、生徒の理解度も 不十分であることが推察される。
- 手洗いを含めた衛生管理の実習がうまくできているかの判断が難しい。
- 手荒れの生徒に対応できるような消毒剤使用の説明ができていない。

実情の把握

⇒エステテック研究財団の調査研究 を学生・施術者達の教育ツールとして 有効に活かして行く必要性

健康被害の防止目的



来年度以降の計画

- ★衛生管理教育をわかりやすくする補助教材 の作成・・手洗い教育用模範例DVD
- ★施術中の感染機会の把握と対策に沿った 衛生管理手法の一覧表など
- 養成施設における技術者教育の支援ツール の作成を目指す。同時にエステティックサロン でも活用できるようにする。

- ★医療機関に受診したエステティックによる 健康被害患者の症例収集
- ★事前聞き取りの重要性・・リスクを見分ける ポイント、施術時の注意点指導ツール作成
- ★エステティック施術前に主治医に相談することなくエステティックサロンでも申告しない・・・
- ⇒医師および被施術者に対して相談又は申告 の重要性をアピールする。